

再評価結果(令和8年度事業継続箇所)

担当課:道路局 環境安全・防災課

担当課長名:水野 宏治

事業名	重要物流道路 金沢能登連絡道路 主要地方道 金沢田鶴浜線 (柳田IC~上棚矢駄IC)		事業区分	地方道	事業主体	石川県			
起終点	自:羽咋市柳田町 至:羽咋郡志賀町上棚				延長	9.6km			
事業概要									
金沢能登連絡道路は、南北に長い県土を結ぶ広域交流基盤として極めて重要な路線であり、道路の安全性向上や、能登と金沢の時間距離を更に短縮させることを目的として、4車線化事業を進めている。									
H27年度事業化		都市計画決定なし		H27年度用地着手		H28年度工事着手			
全体事業費		229億円		事業進捗率		約87%			
計画交通量		162,00台/日		供用済延長		約8km			
費用対効果分析	B/C (事業全体)		EIRR (事業全体)		総費用 (残事業)/(事業全体)		総便益 (残事業)/(事業全体)		基準年
	1.2		5.0%		49/257 億円		311/311 億円		
	参考 1.8 [2%]		5.0%		事業費: 32/240 億円		走行時間短縮便益: 294/294億円		R7年
	参考 2.2 [1%]		5.0%		維持管理費: 17/17 億円		走行経費減少便益: 14/14 億円		
	(残事業) 6.3		(残事業) 42.7%		更新費: / 億円		交通事故減少便益: 3.0/3.0億円		
参考 7.8 [2%]		42.7%		感度分析 (事業全体)		感度分析 (残事業)			
参考 8.7 [1%]		42.7%		交通量 B/C=1.0~1.4(±10%)		交通量 B/C=4.9~6.8(±10%)			
				事業費 B/C=1.2~1.2(±10%)		事業費 B/C=5.4~6.2(±10%)			
				事業期間 B/C=1.1~1.2(±20%)		事業期間 B/C=5.5~5.9(±20%)			
事業の効果等									
<ul style="list-style-type: none"> 能登と金沢の時間距離をさらに短縮することにより、能登地域の定住促進、交流人口の拡大が図られる。 中央分離帯の設置により物理的に車線を分離することで、安全・安心で円滑な交通が確保される。 4車線化区間の拡大により、能登地域の経済活性化、企業立地の促進が図られる。 									
関係する地方公共団体等の意見									
<ul style="list-style-type: none"> のと里山海道整備促進期成同盟会(会長:七尾市長)が事業促進を要望している。 									
事業評価監視委員会の意見									
<ul style="list-style-type: none"> 事業継続は妥当と認める。 									
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等									
<ul style="list-style-type: none"> 周辺環境等に特に変化はない。 									
事業の進捗状況、残事業の内容等									
<ul style="list-style-type: none"> 用地進捗率100%、事業進捗率87% 									
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等									
<ul style="list-style-type: none"> 残る区間の早期完成を目指し、橋梁工事及び改良工事を促進する。 									
施設の構造や工法の変更等									
<ul style="list-style-type: none"> 構造等は特に変更はない。 									
対応方針									
<ul style="list-style-type: none"> 事業継続 									
対応方針決定の理由									
<ul style="list-style-type: none"> 事業の必要性、重要性に変化は無く、費用対効果などの投資効果も確保されているため。 									

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格に社会的割引率(4%)を用いて基準年の価値に換算し集計したものの。

※B/Cの値は、社会的割引率4%を用いて計算した場合の費用便益分析結果。また、比較のために参考とすべき値として1%及び2%を設定し、それに対応する費用便益分析結果を参考として併記している。(〔 〕内は社会的割引率の値)